

プレスリリース

札幌商工会議所 定期景気調査（9月）の結果について
BCP策定に取り組んでいる企業は44.7%、前回調査から10.3ポイント増加
大規模な自然災害や感染症の発生を想定した策定

札幌商工会議所では、会員企業を対象に毎月各業界の業況等を調査し、景況把握に活用しております。
この度、2026年9月分調査を取りまとめましたので、報道・記事掲載についてご協力をお願いいたします。

<調査概要>

○調査内容：【毎月調査】①9月の業況と先行き見通し

【付帯調査】②BCP（事業継続計画）の策定状況

○調査期間：2026年9月7日（月）～9月25日（金）

○調査対象：札幌商工会議所会員企業のうち765社

○有効回答数：298社

○調査結果概要：

①9月の業況と先行き見通し：全産業合計の業況DIは▲12.4と、前月から4.8ポイント悪化。先行き見通しDIは▲18.1と悪化の見込み。

②BCP（事業継続計画）の策定状況

- ・BCPの策定状況は「すでに策定済み」が34.5%、「現在、策定中」10.2%とあわせて44.7%の企業が策定に向けた取組を行っている。2024年2月調査時からBCP策定に向けた取組を行っている割合は大幅に増加している。
- ・BCPを策定していない理由としては、「策定のための人的余裕がない」（36.8%）、「策定に必要なノウハウ・スキルがない」（32.9%）が上位となった。
- ・BCP策定や運用の見直しにあたり期待する支援策としては、「簡易な策定ガイドラインなどの提供」が44.3%と最も多くなった。次いで、「生成AIなどを活用して簡易に策定できるツールの提供」（32.2%）、「具体的な策定・運用事例集の提示」（29.9%）となった。
- ・策定（策定中）したBCPで想定しているリスクは地震が83.7%と最多となった。次いで、風水害（55.3%）、火災（51.2%）、感染症（41.5%）となった。
- ・BCPを策定済みの企業では、「定期的に周知や訓練を実施」が53.7%、「他地域での災害発生時など不定期で周知や訓練を実施」が20.0%とあわせて73.7%の企業がBCPの実効性を確保するための取組を行っている。一方、BCPを策定しても「周知・訓練はできていない」企業も2割強あり、策定したBCPの実効性を確保することが必要である。

※調査結果詳細は別添資料をご参照ください。

札幌商工会議所定期景気調査（過去の当所調査結果をご覧ください）

https://www.sapporo-cci.or.jp/web/purpose/10/details/post_51.html



日本商工会議所 LOBO 調査 <https://cci-lobo.jcci.or.jp/>

日本商工会議所では、各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」（採用、設備投資、賃金動向等）を全国ベースで毎月調査する「商工会議所 LOBO 調査」を実施し、その結果を集計・公表しています。

※LOBOとは「CCI（CHAMBER OF COMMERCE AND INDUSTRY）－QUICK SURVEY SYSTEM OF LOCAL BUSINESS OUTLOOK」（商工会議所早期景気観測）からとった略称。



<本件担当>

札幌商工会議所 企画広報部 企画課 TEL：011-231-1360 E-mail：kikaku@sapporo-cci.or.jp